

面の積石が少なく、前庭部は未発達なようである。

平面規模に比して高さが非常に高い石室で、石材から見ても六世紀初頭前後に比定できよう。

三 扇八幡古墳（県指定史跡）

概要

箕田地区西側の低丘陵上に造られた前方後円墳で、後述する箕田丸山古墳とは二〇〇メートルほどの距離をもつ。前方部端の一部が社殿で破壊されるほかは美しい姿を残していることから県史跡に指定されているが、平成十六年の台風により巨木が倒壊し、墳丘が痛んだことは残念である。発掘調査はなされたことがなく、埋葬部は不明で、出土品の伝来もない。円筒埴輪が採集されており、墳丘の一部には葦石も散見できる。

墳丘

主軸をほぼ南北方向にとり、全長約五八・四メートル、後円部は直径三六メートル、高さ約七メートル、前方部は最大幅四九メートル、高さ約五メートルで、周囲には幅三メートル五メートルの周濠が巡る。更に周濠の外側には周堤と呼ばれる高まりが付設されていて、周堤の外側まで含めると全長八二・五メートルを測り、町内最大の庄屋塚古墳に次ぐ規模である。

周堤南側の一部が張り出したようになることから、筑紫君磐井の墓に比定される八女市岩戸山古墳の「別区」と呼ばれる区画との類似性が指摘されたが、未発掘のためそうした構造の有

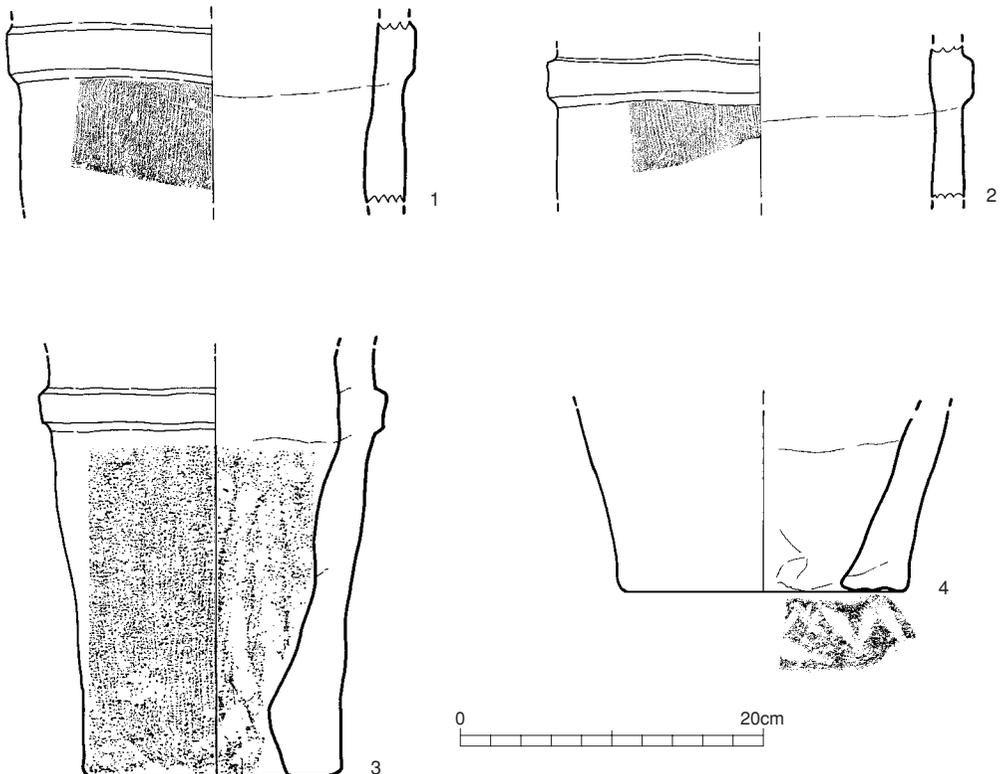


図2-124 扇八幡古墳出土埴輪実測図 (1/5) (3のみ『八雷古墳』より転載)

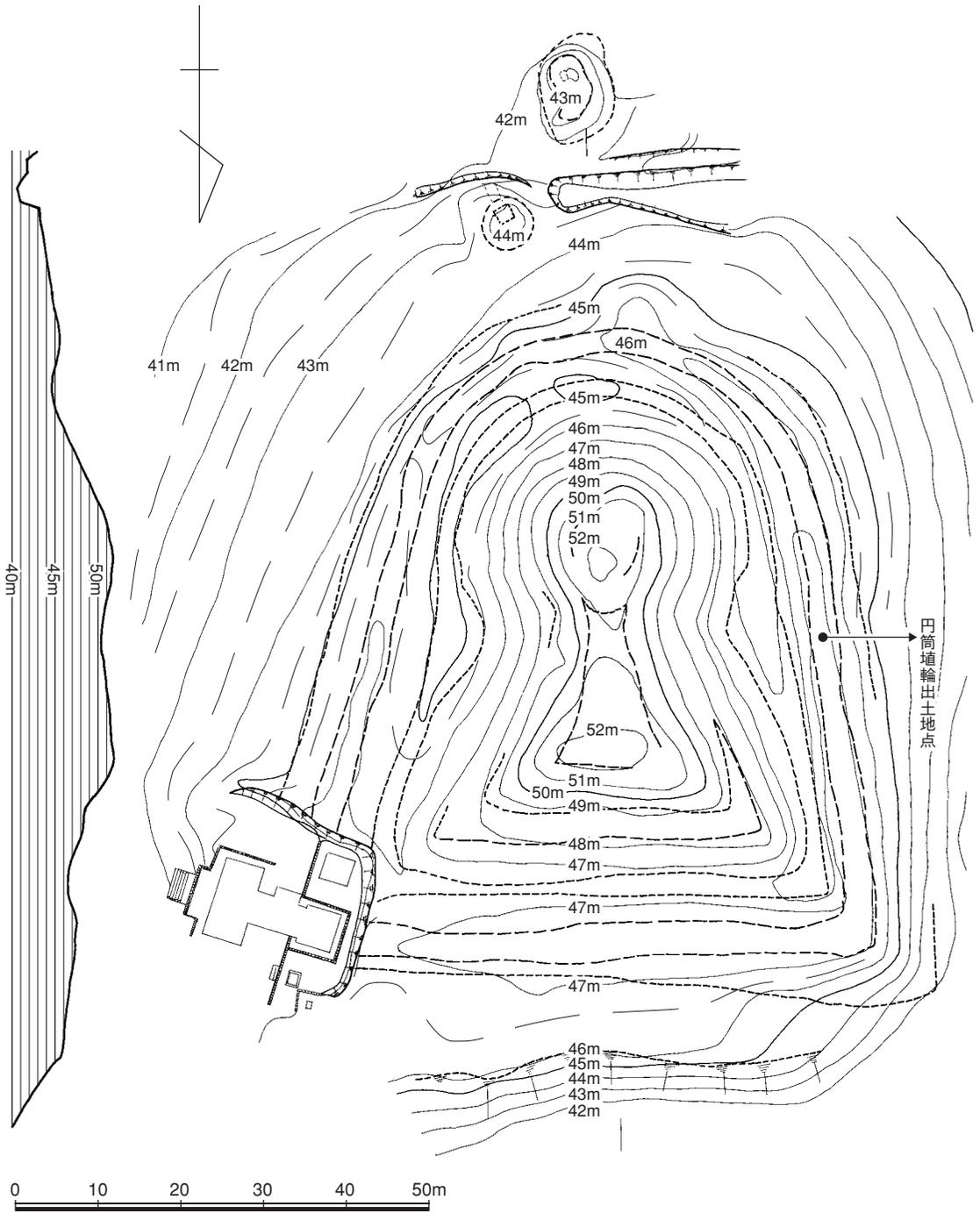


图2—125 扇八幡古墳填丘測量図 (1/800)

無を含めて詳細は確認できていない。岩戸山古墳では「別区」から石人・石猪等が出土し、特別な区画と考えられている。扇八幡古墳は墳丘の形態がこの岩戸山古墳と酷似していて、埴輪が示す年代も矛盾がなく、六世紀前半の築造と考えられる。

四 箕田丸山古墳

概要 箕田集落のすぐ西

側、扇八幡古墳と同じ丘陵上に位置する。昭和二十六年（一九五二）、丸山仙之助が土堀用の土を採るために山を削って、前方部の石室を発見した。未盗掘であったため

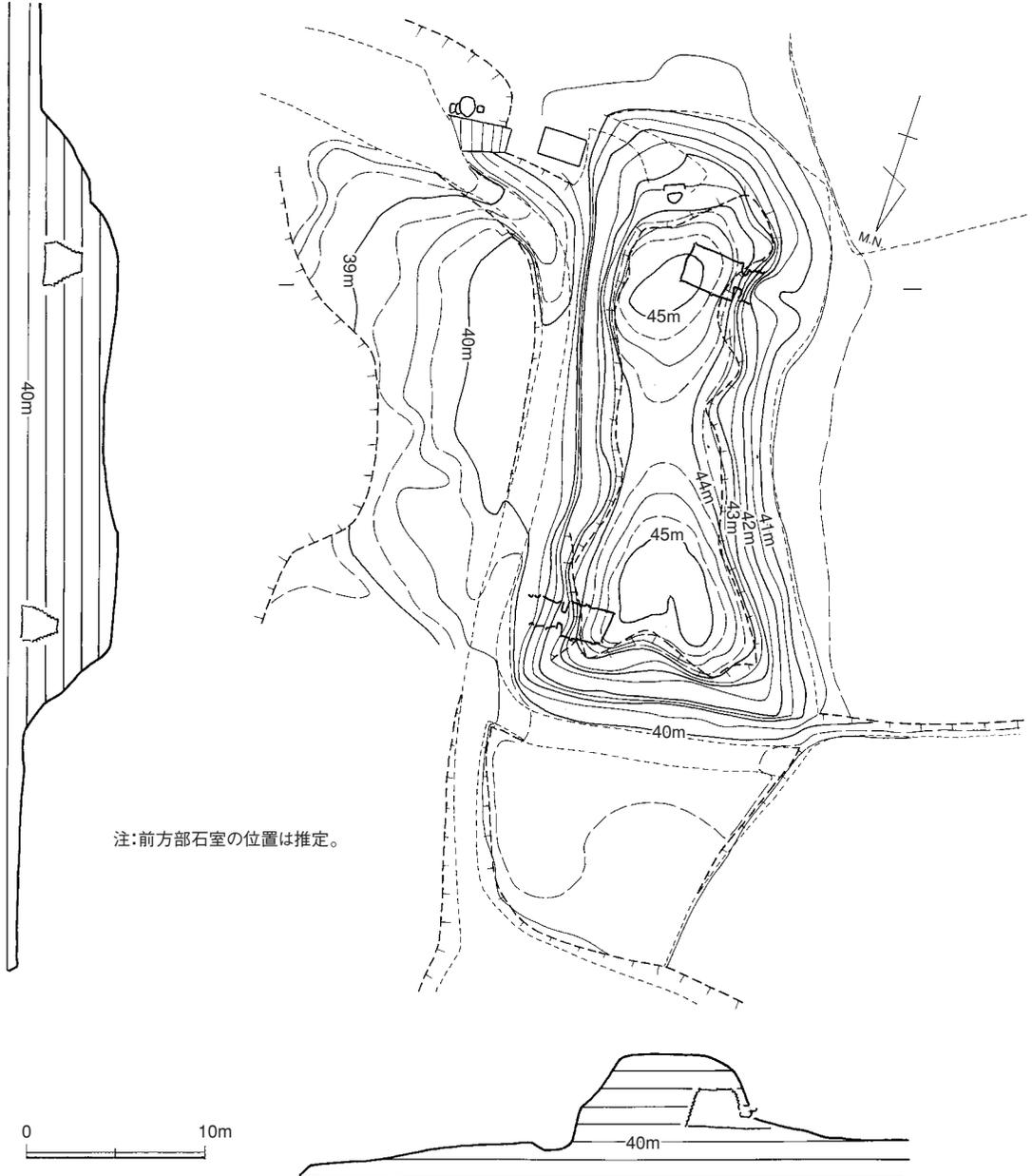


図2—126 箕田丸山古墳墳丘測量図 (1/400)